**◆福部町**

1. **防災対策**

　塩見川の河川改修事業は順調に進み一定の効果は上がっていますが、近年の異常気象により、浸水被害や災害発生の心配が解消されるまでに至っていません。今後も関連する河川の整備を含めた治水対策について、関係機関に強く働きかける必要があります。

　また、海抜が低く家屋の浸水被害が予想される地域は、河川改修工事の進ちょくに併せ、内水排除施設※の整備を行うなど、「浸水被害のない安全安心な暮らし」の確保に取り組む必要があります。

また、防災行政無線のデジタル化に伴い、従来のように行政情報等を町内に放送することができなくなります。各町内で音声告知専用端末機などの情報通信設備を整備して、身近な情報を伝達する体制が必要となります。

1. **産業・観光振興**

観光地として全国的に有名な「鳥取砂丘」は、山陰海岸国立公園と山陰海岸ジオパーク※における屈指のジオエリアであり、観光資源として貴重な自然遺産の積極的な活用と保全に取り組むことが求められています。

その中にあって~~「らっきょう畑」~~砂丘地で栽培され農産物地理的表示保護制度（G1）の登録を受けた、ふくべ「鳥取砂丘らっきょう」のブランド農産物としての更なる定着や「観光梨狩り園」などを魅力的な観光スポットとして発展させるとともに、鳥取砂丘と融合した農産物の加工品開発など、本町の特色ある“新たな観光”の創出と全国への情報発信が重要です。

また、鳥取砂丘・ふくべ砂丘らっきょうを全国にＰＲするため、昭和６２年から「鳥取砂丘らっきょう花マラソン大会」を開催しています。県外からの参加者も多く、らっきょうの知名度向上に貢献しており、今後も継続して実施する必要があります。

1. **~~交通対策~~**

~~ゴールデンウィークやお盆など連休期間中に鳥取砂丘を中心として発生する周辺道路の大渋滞は、緊急時を含め市民生活に大きな影響を及ぼしており、砂丘周辺の駐車場の案内やルート整備など、渋滞解消のための施策を講じる必要があります。~~

1. **~~教育のあり方~~**

~~福部中学校は生徒数が８６人（平成２６年５月１日現在）の小規模校であり、少子化が進む中、今後も生徒数が大幅に減少することが予想されています。~~

~~生徒数の減少は学校教育の大きな問題であり、将来を見据えた対策を講じる必要があります。校区再編、小中一貫校など方法はいくつか考えられますが、子どもたちにとって最もよい教育環境が求められるとともに、学校は本町の核の一つであり、まちづくりの重要な拠点として欠かせない存在となっています。今後、「福部の教育を考える会」がまとめた要望内容を基に、学校のあり方、教育のあり方などについて議論を深めていくことが必要です。~~

1. **ファシリティマネジメントの推進**

老朽化している福部町総合支所庁舎の耐震化を行い、庁舎の機能向上や地域の防災拠点の強化を図る必要があります。同じく耐震化工事の必要な福部町コミュニティセンター（旧中央公民館）を支所庁舎と複合化をすることにより、施設の機能や利用者の利便性の向上を図ります。

なお、コミュニティセンターと隣接する町民体育館を解体撤去した後の用地の利用方法について、全市的な視点や地域の要望等を踏まえて利活用を検討する必要があります。

また、平成３０年４月１日に福部未来学園が校舎一体型幼・小・中一貫校となりますが、中学校校舎に生じる空き教室等の今後の有効活用についても検討していく必要があります。

1. **防犯対策**

町内の通学路には防犯灯が少なく、夜間や早朝に通学路を利用する生徒等は不安を

感じています。特に集落間の道路では、どの集落が維持、管理するのかの問題もあり、防犯灯が設置されにくに現状にあります。これを通学路だけの問題ではなく、福部町全体の防犯の課題ととらえ、まちづくり協議会との連携により、地域全体で取り組みとして計画的に設置していくことが必要です。

1. **新たなインターチェンジを利用したまちづくり**

山陰近畿自動車道には福部インターチェンジがありますが、まちづくりを始め、渋

滞対策、防災の観点から、新たなインターチェンジ（以下ＩＣという）を設置するよう国に要望しています。この要望に対して、国からは、ＩＣにより将来のまちづくりをどうしていくのかを示すよう求められています。

そのため、平成２９年度に新たなＩＣを利用した福部のまちづくり計画を策定し、今後もこの計画によりまちづくりを推進していく必要があります。

**●めざす将来像**

**心豊かで潤いのある砂丘の郷　福部町**

全国的に有名な鳥取砂丘を有する本町は、雄大な鳥取砂丘の魅力を活かしながら、世界初の砂像の屋内展示施設「鳥取砂丘砂の美術館」、砂丘が生み出す地域ブランド「砂丘らっきょう」、二十世紀梨を代表とする「観光梨狩り園」など魅力ある観光資源と融合した観光・産業振興を行い、「自然と調和し多くの人に親しまれる魅力に充ちた観光地」として、今後もますます発展して行くことが重要です。

また、山陰海岸国立公園を有する美しい自然と人情豊かな本町の中で住民相互が交流を図り、郷土愛を育み、誰もが生きがいを持ち、健康で快適な暮らしができる協働のまちづくりを推進し、次世代につながる「心豊かで潤いのある砂丘の郷　福部町」をめざします。